

戦評

大会名 第41回全国高等学校バレーボール選抜優勝大会青森県大会

日時 平成22年2月6日～7日

会場 青森市民体育館

男子決勝(2月7日)

五所川原工業高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25 - 16 \\ 25 - 22 \\ 25 - 17 \end{array} \right\}$ 0 弘前工業高等学校

ファーストレフリー 山道 律人

セカンドレフリー 小林 秀樹

5年ぶり5回目の優勝を目指す五所川原工業高等学校(以下五工)と4年連続30回目の優勝を目指す弘前工業高等学校(以下弘工)との対戦。弘工のサーブから始まった第1セット、7-7までシーソーゲームが展開されるが五工は桑村のライトからのストレートスパイクやフェイント、強烈なジャンプサーブで11-8と点差を広げ始める。五工はその後も千葉や川浪のサーブで加点し、サーブで主導権を握る。弘工はキャプテン小澤のレフト攻撃による連続得点などで反撃するも、五工は桑村のサービスエースで突き放し、そのまま25-16で第1セットを五工が先取する。

第2セット、五工は川浪・桑村の2人のセッターが多彩な攻撃で弘工のブロックに的を絞らせず19-12と点差を広げる。ここから弘工は196cmの長身鈴木との2連続ブロックやピンチサーバーで登場した館山のサーブなどで徐々に点差を縮め、さらに佐々木のブロックなどで一気に21-21と追いつく。しかし、五工は須藤のジャンプサーブや桑村のブロックで25-22と第2セットも五工が連取。

第3セット目序盤、五工千葉のサーブが連続で決まり11-5と弘工を突き放す。中盤も桑村のジャンプサーブや千葉の伸びるサーブが弘工サーブレシーブを崩し19-12。弘工は五工の流れを止めることができず、千葉のAクイックや川浪のサーブで加点した五工が、最後は桑村のライトからスパイクで25-17とし、五所川原工業高等学校が5年ぶり5回目の優勝を決めた。

戦評者 猪股 豪

戦評

大会名 第41回全国高等学校バレーボール選抜優勝大会青森県大会

日時 平成22年2月6日～7日

会場 青森市民体育館

女子決勝(2月7日)

弘前学院聖愛高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25 - 23 \\ 25 - 8 \\ 25 - 22 \end{array} \right\}$ 0 五所川原商業高等学校

ファーストレフリー 岡村尚文

セカンドレフリー 晴山雅紀

2年ぶり7回目の優勝を目指す弘前学院聖愛高等学校(以下聖愛)と5年ぶり4回目の優勝を目指す五所川原商業高等学校(以下五商)の対戦。第1セット序盤はお互いのライト攻撃が決まり点の取り合いで進んでいく。聖愛がセンター攻撃でリズムをつかもうとするが、五商も堅い守りで譲らず一進一退の展開。中盤も聖愛のコンビ、五商もブロックアウトとお互いの持ち味を出した攻撃で加点していく。聖愛がセッター上野を中心としたコンビバレーで加点すれば、五商もレシーブとサイド攻撃で加点し、キャプテン三上のサーブエースで五商がリードを奪う。しかし、聖愛も奥崎や齋藤の時間差で逆転し、25対23で聖愛が第1セットを先取する。第2セットは、聖愛のサーブと齋藤のスパイクが効果的に決まり、聖愛が大きくリードして試合が展開していく。五商のサーブカットが崩れ、苦しい展開になる。終盤も聖愛各選手のサーブが決まり加点し、25対8で第2セットも聖愛がとる。第3セットは、五商三上のライト攻撃と聖愛の連続スパイクミスもあり五商リードでスタートする。お互いサーブミスがありサイドアウトが繰り返されるが、聖愛のセンター攻撃で加点していくのに対し五商のレシーブも堅く、聖愛のスパイクミスもあり五商リードで中盤が進行していく。終盤聖愛キャプテン唐牛のスパイクが決まり、20点で聖愛が追いつくが、五商も荒閑のスパイクで譲らない。最後は聖愛齋藤・花田のブロックが決まり25対22で聖愛が2年振り7回目の優勝を決めた。

戦評者 村元直記